

くれワンダーランド構想推進会議 第1回会議 摘録

- 1 日 時 平成30年5月17日(木) 10時～12時10分
2 場 所 呉市役所本庁舎 757・758会議室
3 概要・骨子

10:00

【市長挨拶】

皆さん、おはようございます呉市長の新原でございます。今日は、ご出席いただきましてありがとうございます。

まず、くれワンダーランド構想推進会議の構成員に皆さんご就任いただきまして、ありがとうございます。それから、今日、貴重な時間を割いてこの場にお出でいただきまして、重ねてありがとうございます。

最初にまず、このくれワンダーランド構想推進会議の目的を申し上げたいのですが、実は先程お配りしました資料の2の開催要綱に書いてあることですが、この推進会議は、呉市が、都会と変わらない、女性や若者がワクワク、イキイキできるまちになるために、3つのビジョン

VISION.1 自然と調和した未来志向の「イキイキした呉」を構築する

VISION.2 女性と若者のチャレンジ支援と時代を先取る産業の創造

VISION.3 世界に自慢できる交流都市への発展

こういったことを目指して、構成員の皆様のご意見を伺うなどを通じて、呉市民の皆様とともに、この「くれワンダーランド構想」を推進することを目的としております。

私が選挙中に提案いたしました「くれワンダーランド構想」につきましては、事前に構成員の方にお送りしましたので、十分読んでいただくかあるいは十分眺めていただいているものと存じます。それから、今日の会議の資料を準備するにあたり、あちらに座っていただいている関係の団体の皆様にもご協力をいただきまして、打ち合わせをしたり、ご助力をいただいたりして、もう既にそういう関係の機関と打ち合わせをしながら進め方を考えております。今日の資料も一部はそういった方のご協力をいただいております。

この「くれワンダーランド構想」を具体的に推進していくにあたっては、多くの市民の皆様と一緒に取り組んでいかなければならないと私は思っております。この場でその議論を皆様にしていただきまして、あるいは意見を出していただきまして、これから市民の皆様が取り組んでいくための準備をしたり、それから、ここでこれは「すぐに取り組んでもいいのではないか」とのご意見があれば、それは関係団体のところに持ち帰ったり、あるいはわたくし共の市役所の職員と相談したりして、すぐに進められるものはすぐに進めるということもやっていきたいと思っております。それから次回の会議に向けて、ここでいただいた議論を基に、もう一度関係の団体とか市役所と相談して次回までにさらに資料を用意するとか、あるいはこういう進め方ができるでしょうかということ相談するなどして、その結果を次回の会議に持ち込むといったことで、この会議を回していきたいと思っております。

そういうことでこの会議は、もちろんこの会議でご議論していただくのですが、ここ
で出たご議論の中で、日々市民と一緒に、関係団体と一緒に「くれワンダーランド構想」
を推進していく、そういう進め方をさせていただきたいと思います。

皆様には、その中心の推進力になっていただきたいと思いますので、どうぞ今日それ
からこれからの会議では思ったことをそのまま遠慮なく言っていただければありがたい
と思っていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【構成員自己紹介】省略（資料1）

【開催要綱等】

開催要綱等について事務局から説明（資料2～資料4）

【座長・副座長の選出】

互選により、座長に 赤川 安正構成員を選出
副座長に 小林 通匡構成員を選出

10:40

【議題1】

「くれワンダーランド構想について」事務局から説明（資料5）

10:45

【議題2】

意見交換

1 「女性起業家創業支援事業」について事務局から説明（資料6）

構成員からの主な意見は次のとおり

- 「女性が考える起業と男性が考える起業の規模が随分違う」ということも、支援策
の中に盛り込んでいかないといけない。
- 継続的な支援という点で、「何かイベントをしたらもういいや」ではなく、その後の
サポートもしっかりしているという形であれば、安心して創業できる。
- 「呉市として何故創業支援するのか」、その方針がちょっと見えない。呉市として「地
域の産業・雇用を創出」ということを目的にするのか、それとも、「観光の誘致」であ
ったり、ないしは、「地域生活の向上」でも良いし、その辺、ちゃんと方針を作って支
援体制を整備していくことが大切なのではないか。

- その方針は、どちらかというところ、「雇用の創出」という旗を掲げるよりは、「くれワンダーランド構想」の一つとして、「従業員2・3人でいいので、そういうのがいっぱい出てきて、地域社会の活性化に役に立つ」とか、こういうような方針がもっと見えるようにしたら良い。そうすると創業する人も創業した人も、やり易くなるのではないかと感じる。
- 単純に、事業を続けていくためのサポートがあれば、自分たちも、より長く続けられる。革新的なことに補助金が出るのがベストだとは思いますが、究極的にはそれは、金融機関と取り組んだ方が良いでしょう。
- 資料5の「時代を先取る産業を創出」には、創業等を絡めて、日本のシリコンバレーを呉につくるんだというぐらいの発想があってもいいのではないかと思います。また、産業創造ではないが、ワークライフバランスも含めて、先進的なことをやっている企業もある。それらをここにも取り込んで、それが若者や女性につながっていくんだというところに結び付けていかないといけないのではないかと。
- 「中小企業の工夫を全力で支援」の項目に書かれている中小企業振興基本条例には、新しいことにチャレンジすることまでは、なかなか取り込むようなことはできないと私は認識しているので、それ以上のものを、この会議で示していくことが必要である。
- 「時代を先取る医療への取組み」には、我が国の医療ツーリズムが、世界的に注目されている訳だから、「その先進地域にする」ということをはっきり書くべきである。産業としての医療を考えるということが必要である。

2 「若いうちからの起業家意識の醸成」について事務局から説明（資料6）
構成員からの主な意見は次のとおり

- 他自治体では、地元の良さを思い出してもらうために、高校生のときに就業体験をさせている例がある。職場体験を少し進めて、高校生のインターンシップみたいなことができるように、意識が高まるのではないかと。
- 子ども達はもちろんだが、その保護者にも呉の中小企業を知ってもらおうと考え、高校生とその保護者を対象としたガイダンスを今年から始める。呉市と中小企業家同友会が主催し、関係団体にも共催してもらい、呉市に本社をおく企業100社が参加する。

3 「農業×観光（首都圏学生かんきつ栽培）」

4 「クルーズ船による観光誘客」

5 「ユニークベニュー」 について事務局から説明（資料6）

構成員からの主な意見は次のとおり

- 呉市にはたくさんの観光資源があり、高いポテンシャルがあるが十分に生かし切れていない。官民ともに呉市の観光の方向性についての共通認識を持ち、観光に対する意識の醸成を図っていくことが重要だと思う。
- 意識の醸成の手始めとして、呉市の観光関係団体や民間事業者など観光に関係する人、観光に興味のある人に参加をしてもらい、呉の観光について議論できる場を設けると良い。例えば、呉市の観光に関する連続した講演会や定期的なワークショップを開催してみてもどうか。
- 海外の方を呼ぶとき、例えばインドネシア系の人たちは食べ物に制限があるが、そのような対応ができるところが少ないし、その情報を集約できていない。行政側にも柔軟な対応を取っていただくなど、外国人の受入に当たっては官民がもっと連携していく必要がある。
- 観光は、既に体験型に移行している。「この世界の片隅に」のヒットにより、呉を訪れる人がだんだん増えてきている。そういう人に対して、もっといい材料を提供し、呉市内の観光を滞在型に持っていき、訪れる方に感動してもらえそうなストーリーやアイデアが重要であると思う。
- 産業観光の中には、自衛隊も含めて考えるべきである。呉海自カレーは非常に素晴らしい取組だと思うし、これ以上のものをどんどん、作っていくべきだと思う。
- 市が中心になってやるばかりではなく、官民共同でやっていくということではないかと思う。市民が出来る範囲はあるが、一方で官が応援しないとできないことも結構ある。うまく産学官民連携の仕組みを作りながら進めていくのが良いと思う。
- 若者を呼び寄せるには、遊ぶ場所、買い物する場所、楽しい場所が必要であると感じる。今の呉には1日過ごせるような、楽しい、魅力のある場所が少ない。だから、東広島に行くようになる。
- 呉の街には、目的もなく歩き時間を過ごせる場所があまりない。大和ミュージアムや入船山記念館などポツンポツンといい物はあるが線になっていない。これは途中に見る物、立ち寄る場所、港街としての風景が出来上がってないからだと思う。ウォークターフロントか歴史的町並みとしての、平面的なまちづくりがなされていないのが、勿体無いと思う。

- 海外の方を呼ぶときに、例えばイスラム系の方がお祈りをする場所がなかったり、食べるものが無かったりする。また、呉の観光はどちらかというと産業に特化しているものが多く、代わり映えがしない。なかなかリピーターに繋がらない観光が多いと感じる。
- 行政は、くれワンダーランド構想の環境を造る、ハードの整備、資金の支援、人材を集める、そういう部分が役割だと思う。行政としては、スタートのところを整備し、しっかり支援していく。後は、行政が思いつかないような民間の知恵を出していただいて、起業・創業などつなげていただきたい。
- 観光とか消費体というのはリピートしてくれるかどうかが一番大きいけど、同じ人が来ているかどうかはなかなかわからない。同じ方に2回話が聞けることもなかなか無いし、そのような意味でフィードバックはどう取るのか。この解がないと、観光の持続性が難しいのではないかと思う。

12:05

【確認事項】

- 1：本会議でのこれらの意見を、各構成員、事務局がそれぞれ持ち帰り、調査・検討して、次回に向け、更に取り組を進めていくこと
- 2：次回の第2回会議は8月中旬を目途に開催すること。それまでの間も、随時、情報共有、意見交換など、構成員・事務局相互のコミュニケーションを図っていくこと

12:10

【散会】